



吉田キャンパスで古代米づくりに挑戦！－第8回公開授業を開催しました－

山口大学埋蔵文化財資料館では、考古学や埋蔵文化財、山口大学構内遺跡の調査研究成果を地域の皆様に身近に感じていただくことを目的として、平成13年度から公開授業を開催しており、今年度で8回目となります。

今年度の公開授業は一昨年、昨年に引き続き日本のお米のルーツとされる赤米をつくり、土器で炊いて食べてみるという内容です。今回は吉田キャンパスにある山口大学農学部附属農場と共催で、延べ4回に渡って行い、小学生5人、保護者・一般・教育学部学生など21名、総勢26名の皆様に参加していただきました。

5月24日(土)－田植え－

農学部技術専門職員の長砂さんに代かきをしていただいた水田で田植えをしました。泥で足元がぬかるんで大変でした。

7月19日(土)－草取り－

稲は約50～60cmに成長しました。水田には一面に「コナギ」を中心とする雑草がびっしりと生えていて、田んぼの栄養分を取られてしまったことなどから、稲は葉がやや黄色く栄養不足のようでした。しかし、参加者の皆さんで力を合わせてきれいに草をとることができました。

9月20日(土)－収穫－

昨年同様、今年も大きな台風が来なかったため、秋晴れの晴天の中、無事に収穫を迎えることができました。最終的に稲は長さ約90～110cmにまで成長しました。収穫には参加者の皆さんが製作した貝庖丁や模造した石庖丁、木包丁などを使って穂摘みをし、残りは鎌で根刈りをしてはぜ架けをしました。

10月4日(土)－脱穀・粳すり、赤米を食べる－

足踏み脱穀機による脱穀や唐箕による選別を体験した後、箸こぎ、臼と杵による粳すり、てみとザルによる選別を体験しました。大変手間がかかるうえ、根気も必要なので、参加者の皆さんも最後にはかなり疲れてしまいました。なお、収穫量は玄米で約11.4kgとなり、昨年(約8kg)よりもやや多くなりました。

お昼には土器で白米4合に赤米0.5合を混ぜたご飯と赤米のみ3合のご飯を炊きました。赤米だけを使ったご飯はやや硬かったものの、炊きたては大変美味しく甘みがありました。このほか、おかずにはアユの塩焼きや磯鍋、モクズガニのスープ、シジミのすまし汁をつくりましたが、これらも大変美味しく大好評でした。

公開授業を終えて

今回の公開授業について、参加者からは「古代米をつくることを通じて様々な体験をすることができ、とても勉強になりました」「粳すりをして赤米がでてきた時には単純にうれしかった」「土器で炊いたお米は本当においしかったです」などの声が寄せられました。参加者の皆さんには、米作りの歴史や大変さを実際の体験を通して学んでいただくことができました。また、今回は水田に雑草が非常に多かったこと、稲の生育にこれまで以上のばらつきがあったことが印象的でした。今年度も盛況のうちに公開授業を無事終了することができ、館員一同心より御礼申し上げます。

来年度も埋蔵文化財資料館では古代米づくりに挑戦する予定です。どうぞご期待ください！ (田畑直彦)



田植え



穂摘み



臼と杵を使った粳すり



参加者の皆さん



山口県内の博物館紹介 vol.15

日置歴史民俗資料館

日置歴史民俗資料館は、旧日置町の歴史を今に留める資料館として、昭和56年7月にオープンしました。1階中央には、県の史跡に指定されている峠山窯跡から出土した須恵器、雨乞台遺跡から出土した石器類等、考古学資料が展示されており、壁には旧日置町の史跡を紹介するパネルが展示されています。2階には農耕具や漁業具、生活用具等の民俗資料が展示され、それらの道具の使い方がわかるイラストも置かれているため楽しく学ぶことができます。それでは、日置歴史民俗資料館の見どころを文化財保護指導員の岡藤正作さんに伺ってみましょう。

(質問) 県指定の史跡、峠山窯跡の須恵器が充実していますね。

岡藤「この窯は、なんらかの事故のために須恵器を焼いている途中で窯が崩れてしまったと言われています。窯の手前側からは良く焼けた土器が多く出土しますが、奥側から出土する土器は生焼けであることがその根拠です。端から順に窯の手前側から出土した須恵器を置いて、須恵器の出土場所と焼け具合との関係が良くわかるように展示しています。」

(質問) 保存状態の良い民具が多く、種類も豊富ですね。

岡藤「昭和53年、農耕具の機械化が進んだため、長門市内の多くの民家で納屋が取り壊されました。それに伴って多くの民具を寄贈いただきました。農耕具を中心に、漁業具の一部や生活用具など多岐に渡っています。下駄の花尾を取り付ける際に用いる道具、蓄音機など珍しい物もありますが、特に見ていただきたいのは捕鯨に用いた漁業具なんです。長門市、特に青海島は鯨と共に生きてきた町で、鯨漁が生活を支えていました。ですから、これらの捕鯨具には人々の思いが詰まっているんです。また、当館では長門一帯の鯨漁を取り仕切っていた津和野の資本家である堀家の文書も所蔵しており、鯨を捕ってから販売するまでの詳細な記録が残っています。」

日置歴史民俗資料館は長門古市駅(JR山陰本線)から徒歩10分の距離で、付近にある長門市役所日置支所が目印です。来館の際、資料館隣の日置農村環境改善センターへ連絡することで自由に見学することが出来ます。峠山窯跡出土の須恵器、長門市を支えてきた捕鯨具など、ここでしか見ることの出来ない貴重な資料を是非ご覧下さい。(藤野好博)



日置歴史民俗資料館 外観



展示解説をしていただいた岡藤さん

お問い合わせ先
なかと歴史民俗資料室
〒759-4101
長門市東深川2660-4
(長門市教育委員会庁舎内)
Tel 0837-23-3703



2008年秋 埋蔵文化財資料館の活動

9月 9/2(火)～9/5(金)

吉田構内国際交流会館(吉田遺跡)にて立会調査を実施。

9/8(月)～9/19(金)

「NPO法人子どもとともに山口県の文化を育てる会」との共催展示
心をかたちにして子どもたちの粘土の未来『野焼き体験・古代人に挑戦』
を開催(於:山口県庁ロビー)

9/20(土) 第8回公開授業『古代人の知恵に挑戦!古代のお米をつくってみよう3』
第3回授業(収穫)開催。受講者11名。

10月

10/4(土) 第8回公開授業『古代人の知恵に挑戦!古代のお米をつくってみよう3』
第4回授業(脱穀・古代米を食す)開催。受講者19名。

10/7(火) 吉田構内国際交流会館(吉田遺跡)にて立会調査を実施。

10/10(金) 第25回企画展『ロマン発見～考古学者の筆～』終了。入館者総数214名。

11/1(土)～11/28(金)

「山口考古学フォーラム」との共催展示
山口考古学フォーラム第1回巡回展示『やまぐち復元～古墳時代の食卓』
を開催(於:埋蔵文化財資料館展示室)。入館者総数215名。

11月

11/7(土) 医学祭にて出前展示『太古の技術革新～やよいどき登場～』を開催。
(於:医学部キャンパス霜仁会記念会館1階ロビー) 観覧者総数70名。

11/15(土) 常盤祭にて出前展示『わたしの仕事展』を開催。
(於:常盤キャンパスD講義棟1階ロビー) 観覧者総数160名。



第8回公開授業(収穫)の模様



共催展示『やまぐち復元～古墳時代の食卓』模様

編集・発行

季刊山口大学埋蔵文化財資料館通信

第15号

『てらこや埋文』2008 冬

山口大学埋蔵文化財資料館
〒753-8511 山口県山口市吉田1677-1
【Tel/Fax】083-933-5035
【E-mail】yuam@yamaguchi-u.ac.jp
【HP】http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~yuam-w/Shiryokan.home/

発行年月日 2008.1.15.



資料館この一品 vol. 14

磁器製の将棋駒「金」

考古学は遊具が苦手

埋蔵文化財調査は、出土する土器や石器、木器、金属器など、過去の人類が用いた道具を詳細に研究することで当時の生活風習を復元することを目的の一つとしています。土器の研究は当時の調理方法や食事文化を解明する手がかりとなりますし、石器や木器の研究は、農耕・土木・治水などの技術史を知る上で重要な視点を与えてくれます。さらには、各種道具のつくられ方(生産)と使われ方(消費)、捨てられ方(廃棄)を考察することで、当時の社会構造まで復元することが可能となるのです。

しかし逆説的には、埋蔵文化財調査や考古学は証拠として物質が残らない事象を苦手になっていると言えます。その苦手分野の一つに「娯楽(遊び)」が挙げられるのではないのでしょうか。実は、遺跡から遊具が出土したという報告事例はあまりありません。その原因は「昔の人が遊ばなかった」のではなく、大昔の人々が身近なものを遊び道具として使用した場合、私たちはそれを遊具として認識できないのが理由だと推定されます。例えば「おはじき」のような遊びを「ただの石ころ」を使って行っていたとすると…「チャンバラ」のような遊びを「ただの棒きれ」を使って行っていたとすると…それらの道具が遺跡から出土したとしても、私たちはそれを遊具として認識できるでしょうか？さらには、私たちが知らない遊びが過去に存在したとすると…その道具を遊具として認識するのはなかなか困難ですね。結局私たちが遊具として報告できる資料は、ある程度現在にまで伝わっている確実な娯楽の道具に限られる、という訳です。

磁器製の将棋の駒が出土

そこで今回ご紹介する資料は、平成 17 年(2005)に山口大学医学部構内遺跡(宇部市所在)から出土した江戸時代の将棋の駒「金」です。「な〜んだ、珍しくもない」と思われる方もいるでしょうが、実はこれ、かなりの貴重品。

現在はプラスチック製のものも増えていますが、将棋の駒と言えば通常木製。将棋が日本列島にもたらされたのは、遅くとも平安時代後期(11世紀)と考えられています。将棋の伝来以降、駒は一貫して木製でした。江戸時代に至り、国内での磁器生産が本格化するに従い、磁器製の将棋の駒も生産されるようになりますが、これは本当の貴重品で、身分の高い人しか使うことができなかったと推定されます。将棋の駒生産で有名な山形県天童市の将棋資料館が発行した『天童の将棋駒と全国遺跡出土駒ー将棋駒のルーツを探る』(天童市将棋資料館発行 2003年)という本には、105遺跡 493点の遺跡出土将棋駒が集成されていますが、磁器製の駒はわずかに7点。山口県では初の出土となります。そもそも、木製品は地中に埋まると通常腐ってしまうため、小さな木製将棋駒が遺跡から出土すること自体が珍しい出来事と言えます。山口県内では未だ木製将棋駒の出土はなく、わずかに萩城跡外堀地区(萩市所在)から素焼き製の将棋駒「桂馬」が出土しているに過ぎません。この資料がいかに貴重かお分かりいただけると思います。

残念ながら、この資料は近代の耕作土から出土したものであるため、資料自体から読み取れる情報以外は謎に包まれています。今後の出土地周辺調査にご期待ください。(横山成己)



おもて



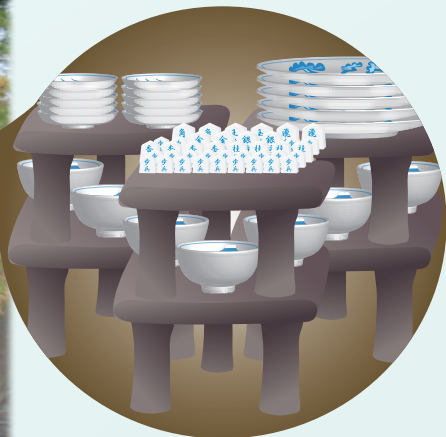
うら

山口大学医学部構内遺跡出土 磁器製将棋駒「金」



注目!

基底部に砂目(すなめ…焼成時に他のものとくっつくのを防止するための工夫)が残っていることは…



将棋駒は直立した状態で窯の中に並べられ焼かれたものと考えられます



【参考画像】伊万里市 鍋島藩窯公園の登り窯



土器工房まいぶん vol. 3

粘土を低温で焼いてつくられた古代の食器や調理具を、私たちは「土器」と呼んでいます。遺跡の発掘調査で一番多く出土するのが、この「土器」と呼ばれる古代人の道具です。つまり、土器は古代の人々の「生活必需品」だったのです。それでは、土器はどのような方法でつくられていたのでしょうか？このコーナーでは弥生時代の土器づくりの方法を紹介していきます。

覆い焼き①

土器の焼き方には、「野焼き」「覆い焼き」「登り窯」など、様々な方法があります。今回ご紹介する「覆い焼き」は、最近の研究で、弥生時代の焼き方ではないかと推測されています。この方法だと内部の急な温度上昇を防ぎ、高温を長時間保つことが出来るので、土器が割れるなどの失敗が比較的少なくなります。

①放射状に敷いたワラの上に薪を組み、土器を置く



②円錐状にワラをかぶせる



③2〜3センチの厚みで粘土(赤土)をかぶせ、点火孔と空気孔をあける



覆い焼きの豆知識

この覆い焼きでは燃料に薪・ワラを使用していますが、それは一体なぜなのでしょう？薪は燃えやすいですが、その分温度上昇が急になり、土器が割れる原因となってしまいます。それに対してワラは、成分にガラス・ケイ酸などが含まれており、他の燃料と比べると燃え方がゆっくりなので、急な温度上昇を防いでくれるのです。それでは全体を覆っている赤土には、どのような効果があるのでしょうか？それは次回の土器焼成でご紹介します。

(乃美友香)



喫茶まいぶん Vol. 7

このコーナーでは、山口県内の史跡公園を紹介します。この度ご紹介するのは熊毛郡平生町にある古墳で、昭和 57 年に山口県の史跡に指定され、現在は古墳公園となっています。

じん が やま

神花山古墳

少しひんやりした空気から冬の訪れを感じ始める季節、虫たちも次の春に備えはじめたのか、山は静かです。ここは神花山、古代には海の交通要所であった平生湾を見下ろす要地です。現在から遡ること約 1600 年前、神花山古墳はこの山の頂に築かれました。発掘調査の結果、熊毛一帯を治めていた人物が葬られた古墳と考えられています。注目すべきは、棺の中より発見された頭蓋骨から、その人物が 20 代半ばの女性という事実です。神花山古墳が築かれた時代には男性的なイメージを彷彿とさせる鉄製の剣や甲冑などが目立って副葬されている中、首長＝男性の認識に一石投じる古墳として非常に高い学術的価値を持っています。

史跡公園は熊毛郡平生町大字佐賀 1199 番地の 1 に位置し、平生町役場から平生湾を経由して上関町に向かう県道 23 号線沿いにあります。道沿いから見える神花山の登山口には「古代女王之像 神花山古墳入口」の看板も出ており、問題なく辿り着けます。公園内には調査成果を基に復元された古墳に加えて、詳細な説明板が設置されているためしっかりと学ぶことが出来ます。

(藤野好博)



復元された埴輪



復元された埋葬施設



遺跡公園周辺の地図